

一二月五日の国民投票は不成立に終わった。この一ヶ月、ハンガリーはこの国民投票で混乱の極みにあつた。ハンガリー語にkapkodásという言葉がある。物事の本質を見失い、右往左往している様子を言う。まさに、今回の国民投票の騒動はkapkodás以外の何物でもない。そもそも何を決定するのか。各政黨の解釈もまちまち。FIDESZのキヤンペーンと政府社会党からの激しい反論で、国民投票の「意味」が問われる奇妙な選挙戦になつた。

混乱を極めた国民投票

「ハンガリ一人証明書」の交付すら進んでいない。証明書の取得が明らかになれば、排外主義的な民族主義を助長し、かえつて生活が困難になる。だから、この地域に生活するハンガリ一人は慎重な行動をとっている。ハンガリ一人に移住したい在外ハンガリ一人は、

の地で平和で豊かに生活できる条件を保障していくことが、EU拡大の目的の一つでもあるはずだ。ところが、まさにハンガリーがEUに加盟したその年に、この理念と相反する国民投票を提唱するのはどういうことだろう。

「在外ハンガリ一人すべてにハンガリー国籍を与え、ハンガリーのパスポートを交付する」という提唱である。

在外ハンガリ一人に二重国籍を

い。そもそも何を決定するのか。各政
党の解釈もまちまち。FIDESZの
キャンペーンと政府社会党からの激し
い反論で、国民投票の「意味」が問わ
れる奇妙な選挙戦になつた。

ハンガリーの滞在期間が一年を過ぎたところで国籍取得申請が可能で、そこから通算して三年弱程度で国籍が取得できるようになっている。

公立病院民営化停止
国民投票のもう一つのテーマがこれ。ハンガリー労働者党が主導して、FIDESZと組んで国民投票の議題にした。この解釈をめぐっても混乱した。そもそも民間資本の病院を認めろのか認めないのか。「国民投票が成立したら、民間の薬局や病院は再国有化しなければならない」、というのが政府社会党のメガティヴ・キヤンペーン

税も支払うのだから、政府社会党の収支計算は誤りだと反論する始末だ。

こうして、議論は物事の本質から次第に離れ、いつたい何を決定する投票なのか、ますます訳が分からなくなつていった。「イエス」の賛成投票が大量の移民受入れ賛成を意味するのであれば、そう単純に賛成できないと考えるのも無理もない。「ノー」の反対票が四八・四五%にも達した理由だろう。

答えようがない」という態度をとつた。ただ、社会党はこれを一步踏み出して、ネガティヴ・キャンペーンをやり出した。ハンガリ一人証明書を持つ在外ハンガリー人八〇万人が国内に移住すれば、巨額の財政資金が必要にならる、納税者一人当たり一五万Fr以上の税負担が必要になると主張しました。在外ハンガリー人にFIDESZ支持者が多いから、FIDESZが熱心なのだとも言いふらした。これにたいして、FIDESZはハンガリーに移住

これにたいして、FIDESZは既存の
国立・公立病院だけが対象と主張した
が、他方でMDFなどは「資本に医療
を委ねるのは国民の均等な医療権を侵
害する」と、あたかも民営病院そのも
のを否定するような主張を開いた。
この議題も不成立になつたとはい
え、賛成率が二重国籍賛成よりもはる
かに高かつた。この点は社会党も良くな
く思つた。ホルン時代から社会
会党は民営化万能論に支配されている
が、なんでも民営化すれば良くなるわ

を負う。今回は投票率が三八%で、重国籍賛成が五一・五五%，公立病院民営化停止賛成が六五%だった。前者の絶対得票率は二〇%に達せず、後者のそれは二五%を若干下回り、ともに有効規定には達しなかった。棄権者が多かったのは、設問の不適切さによると考えて間違いないだろう。政治的な敗北を喫したのは、FIDESZとハングガリーハン世界連盟である。

公立病院民營化停止

国民投票のもう一つのテーマがこれ。

ハンガリー労働者党が主導して、FIDESZと一緒に国民投票の議題

この解釈をめぐつても混亂の原因は、國民投票の議題

にした。この角界をめぐる政治活動は、そもそも民間資本の病院を認めろ

のか認めないのか。「国民投票が成立

したら、民間の薬局や病院は再国有化しなければならぬが、とひうのが政

府社会党のメガティヴ・キャンペーン